



1年の始まりは1月だけど、生活の中で大きな始まりの月と言え
ば4月。多くの人に変化のある月ですね。

入学や進学、就職など、新生活をスタートする季節です。

つわぶき授産工場では、紀北支援学校を卒業されたばかりの3名
の新しい利用者さんを迎えました。気候も暖かかったり寒かった
りの日々ですがお体には十分お気をつけください。

☆☆☆ 4月の行事予定☆☆☆

3日 (土)	通所日 入所式	10:00~11:00
13日 (火)	献立会議	13:30~
29日 (木)	昭和の日	

4月の土曜稼働日は、3日です。

皆さん、忘れずに通所して下さい。

☆☆☆ 3月の出来事☆☆☆

8日(月)	検尿提出日		
9日(火)	献立会議	13:30~	
19日(金)	春の内科検診	9:30~	医務室

1年のはじまりは「1月」。なのに、なぜ 新年度は「4月はじまり」？

日本では「入学式」といえば、4月ですが、アメリカやイギリスなどの欧米諸国では9月スタートが一般的。シンガポールやオーストラリアは1月、ブラジルは2月、韓国は3月、タイは5月、

フィリピンは6月……と、世界を見渡すとそのタイミングはバラバラ、なかでも「4月はじまり」は、かなりの少数派。では、なぜ日本は4月？ これには諸説あるものの、どうやら“日本の産業構造”と密接な関係があるらしいのです。

はじまりの季節、春。そのワケは、実は“秋のお米”にあった?! 江戸時代の末期。当時の日本の主な産業といえば、農・林・水産業などの“第一次産業”。時代劇でよく見られる“年貢”のイメージ通り、税収の源といえば“お米”でした。とはいえ、お米や農産物をそのまま税金として国に納めるわけにもいきません。大まかにいうと、秋に収穫したものを売ってお金に→税金が納められる→納められた税金を元に予算が組まれる……という流れになるのですが、これでは“新しい予算による新しい1年”を1月から始めるのには、無理があったご様子。そこで、「4月はじまり」となったんだとか。

また、当時、世界で、そして日本にも影響力のあったイギリスの会計年度が「4月はじまり」であったことに合わせた、というのも、大きな理由のひとつだったようです。そうして、学校や会社も、国のルールに従っていったというワケです。

当たり前のように毎年迎えている“新年度”、そして「4月はじまり」。ひもといてみると、こんな面白ヒストリーがあったのです



ね!

～人事異動のお知らせ～

離任

小畑 陽示
つつじが丘苑就労支援部就労継続 B 班主任

木下 剛
綜成苑授産部通所支援班生活支援員

着任

稲垣 博敏
授産部次長、生活サービス管理責任者

前勢 隆也
授産部就労継続班副主任

★ 退職職員のお知らせ ★

田中事務員と西岡支援員が退職することとなりました。

(ご挨拶)

田中利征

この度、3月31日付をもちまして、退職させて頂きました。
永きにわたり、無事に勤めさせて頂くことができましたのも、
ひとえに皆様方のご指導とご厚情の賜物と深く感謝いたします。
誠にありがとうございました。

西岡 修一

私事でございますが3月31日付にて退職させて頂く事になりました。
つわぶき会さんで14年8ヶ月お世話になりました。利用者の皆様、
保護者の皆様、理事長さん、職員の皆様大変お世話になりました。

有難うございました。最後になりますが皆様の御健康とつわぶき会さんの益々の御発展をお祈りしています。有難うございました。